



東小だより

横浜市立東山田小学校
学校だより5月号

平成31年4月26日発行

TEL (594) 4851

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashiyamata>

子どもたちの「三種の神器」



校長 宇都宮 桂

新しい元号が「令和」に決まりました。そして、5月1日に新天皇が即位し「令和」が施行されます。今回、天皇が譲位される際に、三種の神器が受け継がれます。三種の神器とは、天皇が皇位の璽（しるし）として代々伝わってきた3種の宝物のことを言います。「八咫鏡」（やたのかがみ）、「草薙剣」（くさなぎのつるぎ）、「八坂瓊曲玉（やさかにのまがたま）」のことです。また、昭和30年代には「冷蔵庫」「洗濯機」「白黒テレビ」と生活を変えた家電が三種の神器と呼ばれ、さらに、昭和40年頃には「カラーテレビ」「クーラー」「自動車」を3C「新三種の神器」とも言われていました。

さて、今の子どもたちに必要な「三種の神器」とはどのようなものでしょうか。私は3つの心をもつことが大切だと感じています。

1つ目は「ありのままの自分でいい」と思える心です。「自分は自分」「自分には価値がある」と思えることです。これは人との比較ではなく、そのままの自分を認めることで生まれる心です。

2つ目は「自分にはできることがある」と思える心です。「人の役に立っている」「自分の役割がある」と思えることです。これは人とかかわることで生まれる心です。

3つ目は「失敗しても立ち直っていく」と思える心です。「困難に負けない」「たくましく乗り越える」と思えることです。失敗や困難に出会ったときに、くじけないで立ち直っていくための心です。

どのようにしたら、これらの心を育てていくことができるのでしょうか。1つ目の心は、「以前の自分と比べて出来るようになった自分を褒める」「目標を細かく設定して、少しずつ出来ることを増やしていく」「保護者等、身近な人と五感を通して共有体験をし、感情の交流の中で安心を積み重ねていくこと」がよいと考えます。2つ目の心は、子どもなりのこだわりで努力や工夫をしているので、大人のものさしではなく、「子どものものさしで測り、認めて、褒めてあげること」がよいと考えます。3つ目の心は、つまりく場面に直面したときの気持ちの切り替えが大切です。「深呼吸をする」「体を動かす」「その場から少し離れてみる」等、失敗や困難に感じた、また、自分にあった気持ちの切り替えの仕方が出来るようになるとよいと考えます。

そして、これら3つの心を育てるには、保護者のかかわりが重要です。「子どもに寄り添い、ときには膝に乗せたり、ギュッと抱きしめたりして話を聞くこと」「できないところも含め、子どものすべてを肯定すること」「3S（さすが、すてき、すばらしい）で褒め、愛情をたっぷり注ぎ、ポジティブな気持ちをもたせること」等、お子さんをたくさん褒め、前向きな気持ちをもてるように育てることです。

新年度がスタートし、子どもたちのやる気には目を見張るものがあります。4月27日から10連休を経て、令和元年となり、新学年は続きます。子どもたち一人ひとりが輝き、スマイル&チャレンジひがしっ子の姿が数多く見られますように、学校でも「子どもたちの心＝三種の神器」を育てていきたいと考えます。今後も保護者や地域のみなさまのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。